三樹の酒亭に遊ぶ（菊池渓琴）

烟　濃やかに　山　淡くして　晴沙に　映ず
日　落ちて　春楼　細雨　斜なり
朦朧たり　三十六峰の　寺
箇々の　鐘声　緩やかに　花を　出ず

烟濃山淡映晴沙　日落春楼細雨斜
朦朧三十六峰寺　箇箇鐘聲緩出花

解説　京都三本木の料亭の春雨にけぶる東山の晩景を詠じたもの。

語釈　※三樹酒亭＝京都の三本木の料理屋。※晴沙＝晴天の川原の砂。※朦朧＝ぼんやりとしてはっきりしないこと。※三十六峰＝京都東山。三十六は実数ではなく、数の多いことをいった。

通釈　春の一日、友人と鴨川の辺、三本木の酒楼に上れば、霜が濃く立ちこめてきて、山色が淡く薄れ、晴天の川砂の明るさとの対照が美しい。やがて日が沈むと楼外は小雨となり、細かい雨足が斜めに、わずかに風が吹いている模様である。おぼろに霞む東山三十六峰の寺々から晩鐘の音が緩やかに花の雲の間から洩れ聞こえてくるのである。